

あきる野民報

発行責任者/松平重幸 TEL&FAX 558-0718

住民の利益をまもり、「住民こそ主人公」のあきる野市政実現をめざして!

2008.6.8 No.488(毎月2回発行)

中国四川大地震で



崩れた校舎のガレキの中から救出される児童。

あきる野市の

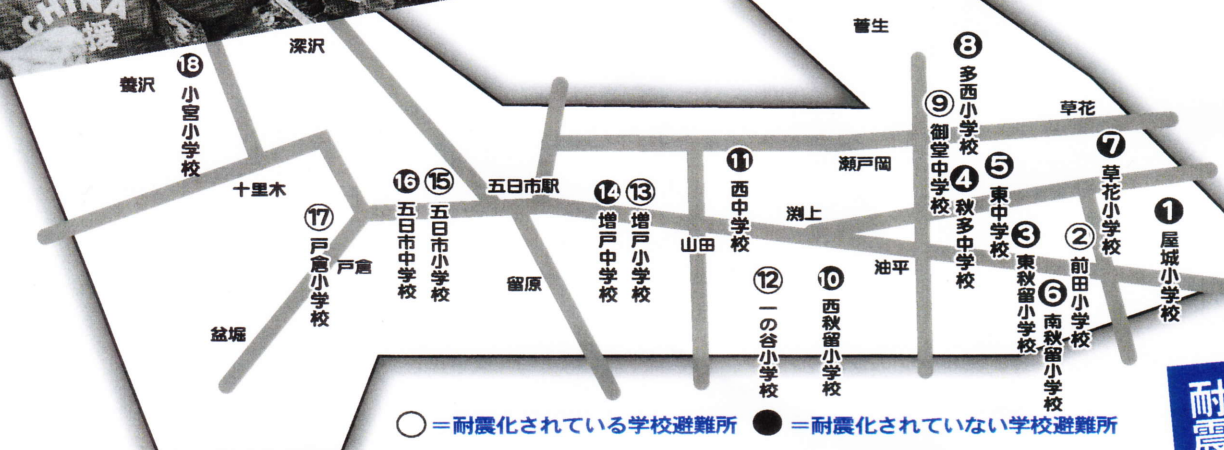
浮かび上がった 学校耐震化の遅れ

5/18日のTV朝日「サンデープロジェクト」でも放映

小・中学校18校で耐震化は6校のみ

東京の区市町村でワースト1

耐震化率29.2%



今度の大地震の一つの教訓は、将来国を支える青少年が学校建物崩壊による、考えられない大規模の死にです。写真でも悲惨で言葉もありません。原因は偽装も含め、耐震化がほとんど施されていないとの報道もされています。

マスコミも日本の現状を 取り上げ警鐘乱打

中国での震災による青少年の大災害の影響を受けて、マスコミでも学校体育館などの耐震化の促進を強調しています。

なかでも十八日のテレビ朝日のサンデープロジェクトではこの問題を取り上げ、あきる野市が、東京の中で一番遅れていると報道しました。学校耐震化の状況は、東京の平均が七十二・四%、あきる野市は二九・二%で東京都で最低です。

影山保議員の談話

中国の大地震の報道を見たとき、多くの子どもたちが集う学校の耐震化は、何を置いても優先しなければならぬと、市民みんなが感じたと思う。

合併して13年、校舎の大規模改修以外耐震工事は一校もしなかった。ようやく今年度2校実施するが、計画ではすべて終わるのに15年かかる。予算はおよそ20億円、ちょうど温泉建設で借入した金額だ。私たち共産党市議団は、一般質問や予算・決算審議のたびに「温泉建設より学校の耐震化を」と、声を大にしてくり返し訴えてきた。市長と与党議員は予算がないことを理由に背を向けてきました。税金の使い方が問われる問題であり、学校耐震化の遅れはまさに政治の重大な責任である。

野良望

▼長野盆地の南西部にある姥捨山は、観月に絶好の山と聞いています。山里の極貧の村人達は、労働を負えなくなった老人達を、食いぶちを減らすために山へ捨てに行つた言い伝えが、「大和物語」の姥捨伝説です。一見残酷な物語ですが、結末は老人を大切にしなければならぬ親孝行の話です。話のパターンは色々あつて、山へ捨てに行く途中、老婆は木の枝を折って息子にそれを目印に帰れと云い、息子は老婆の優しさに触れ村に連れ帰つた、親を老人を大切にすることの話が一般的です。▼

「後期高齢者医療制度」が四月から始まりました。新聞もテレビもこの制度を姥捨山と騒いでいます。この制度は高齢者の生活の現状を一切理解せず、保険料を取り立て、未納者は保険証を取り上げます。2011年までの一兆五千億円の医療費削減は、どんな悪法が出てくるか想像できません。福田首相が姥捨伝説の息子のように、高齢者を大切にすることがあれば容易に廃止できるかもしれません。(木崎)



すてきなお母さん達を見て育ちました。おしゃれな人、お人形を作る人、洋服を作る人、お料理の上手な…。私の母もいろいろとすてきですが、ものを作ったりはあまりしないのが残念でした。自分が母親になってから、母にそう言ったところ「でも、よそのお母さんが作る人だったでしょう。あなたはそれを見てそういうお母さんになろうと思ったんだから、それでいいのよ」と。えーと言うわたしに「だからね、あなたもなんでもできるお母さんじゃなくてもいいのよ、よかったわね!」。

煙に巻かれたような気もしますが、こどもは一人で育てるものじゃないですね。たくさんの人々の色々な魅力を見て育つことが大切。なにより、完璧な親じゃなくていいのは、ありがたいです。

(08.6.8)
連絡先は☎550-6674

あきる野9条の会結成3周年

『田中正造と憲法9条』に60名参加!

学習会

郡読の「あじさいの会」→



↑梅田欽治先生

←会場全景

あきる野9条の会は結成3周年事業として、5月31日、あきる野市中央公民館で学習会「田中正造と憲法9条」を開催しました。

「あじさいの会」によるコミカルな「あきる野賛歌」と、一転して厳粛な「日本国憲法前文と9条」の群読が行われました。

宇都宮大学名誉教授の梅田欽治先生は、「田中正造の平和思想と日本国憲法9条と題して講演し、正造の平和思想は、実直な人間であり自らの体験と足尾鉍毒との闘いの中で、民衆の立場にたつて生まれ

発展させられたと解明しました。谷中村に移り住み家屋の強制破壊の時期にもハーグ万国平和会議に軍備全廃を提案する行動を行い、「真の文明は山を荒らす、川を荒さず、村を

破らず、人を殺さざるべし」と憲法9条に通じる「無戦主義」にいたった経過を詳しく話しました。先生は、「いま、地球環境を守るためにも憲法9条を守ることが求められている」と結びました。

参加者から「とても分りやすく、田中正造の平和思想が理解出来た。人類が平和に暮らすために憲法9条を守り生かす運動が必要なることを痛感した」当時の話を現代に結び付けて話していたので、よく分かりました」などの感想が寄せられました。



絵手紙/神崎茂子さん・瀬戸岡在住

9条世界会議に参加して思う

「憲法まもれ」——新たな出発にむけて②⑤

瀬戸岡在住 安藤保子

二〇〇八年五月四〜六日、

幕張メッセで開催された9条世界会議に参加してきました。この会議は「武力によらずに平和をつくる9条の考え方を今世界に生かしたい、戦争の無い世界のために」と開かれました。

そして、三日間世界の希望としての9条を語り合い、六日に戦争を廃絶するための9条世界宣言が採択されました。



分科会「平和を創る女性パワー」参加者たち

いまや日本の憲法9条の精神は世界に共有される遺産として尊重、保護、活性化しつつ、国際平和メカニズムとして確認されたのです。しかし、今の日本では、戦争出来る日本にしたいと考えている勢力に対して、国民が結束して平和憲法をまもる体制が出来ていないのが現実です。

私がこの会議に参加して感じたのは、世界の様々な国から参加した方々が、ご自身の活動をつうじて日本の憲法9条への思い、期待をこの会議で発言していることでした。

日本が憲法9条を持っているだけで、世界中の人々が日本を信頼してくれているのです。日本の憲法9条が世界の平和を創り、生活環境・人権を守ることに繋がるのだということが沢山語られました。そんな素晴らしい憲法を私たちは六十余年守ってきた。

それは日本だけでなく、世界中の希望に繋がっていたことを再認識させられ、今後とも保持していく役割を日本が託された会議でした。

この会議に沢山の若者が参加していました。大学での会議に参加を呼びかけられて参加したそうです。元気をもらいました。日本に憲法9条がある以上こんな出会いがあり、これからも素晴らしい出会いが期待できそうです。その為にも、ない知恵を絞りきってでも、日本の平和憲法を守らなくては、いま、熱い思いです。

俳句

マニキアの爪で踏むくまがえり (照代)
 柄咲くや白雲ほぐれつつ流れ (和恵)
 曳き売りの喇叭の音や冷奴 (淑子)
 盛る間なく爺の手の出て柏餅 (富子)
 茹で餅を友呼び作り五月晴 (やす子)
 青葉老人のはじめの石の斧 (かほる)
 龍飛岬南風に聴くは龍の声 (香治)
 植え込みを描走り抜け著我の花 (静代)

万緑や鈴となりし雄の声 (和恵)

歴史探訪 第68回 唐沢武一さんに聞く 昔の二宮 ⑩

第二次世界大戦が勃発し、二宮の住民も多くの人が召集されます。東秋留村の中で人口比の多かった二宮は、終戦の一九四五年までに召集された人の数は半数を占め、一五七名に及んでいます。

「五日市線の襲撃はありましたけれど、この辺りは戦争の被害は余りありませんでした。飛行機はよく飛んでいたけれど、荷物を丸めて逃げたような事はありません。横田基地航空審査部の人からアルコイルを預かっていて、一斗缶数本を庭にあつた穴蔵といつて昔から蚕の桑の葉を貯蔵する地下室へ入れておいたのです。終戦の晩、その一本を出して河野専一さんの家を持っていつて終戦を喜び合いました。アルコイルを水で五倍に薄めて飲むのですが、仲間達にも分けてやり、酒がない時代ですから何より喜ばれました。

《昔のような平和な時代がくるぞ、もうあんな戦争はこりごりだ》と言いながらの乾杯でした。食糧難の時代ですから、私の家に出した人達がよく来ました。私は川柳の会に入っていた事もあり、同人仲間が遠くから電車で尋ねてくるので、懐かしさもありません。私達もあつたので、懐かしさもありました。私達もあつたので、懐かしさもありました。私達もあつたので、懐かしさもありました。

一本榎 (平沢) 草花 (統く) 木崎秀治